

熊本矯正歯科研究会

NEWS LETTER

2019 年度（春季）

事務局：きょうごく矯正歯科・小児歯科クリニック内
〒862-0963 熊本市南区出仲間
TEL 096-334-6055 FAX 096-334-6057



2018 年度 熊本矯正歯科研究会（2018.11.10）『くまもと県民交流館』にて

会長挨拶



熊本矯正歯科研究会会長 やまべ矯正歯科クリニック 山部耕一郎

会員の先生方におかれましてはご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。
2016年春より、歴史ある熊本矯正歯科研究会の会長を仰せつかって以来、無事2期目の半ばを迎えました。
会務を全うできるのも会員の先生方ならびに理事の先生方のご理解とご協力のお陰です。感謝申し上げます。
私に残された残り1年は、歴史と伝統のあるこの熊本矯正歯科研究会を、より良いものとして次の執行部に引き継いでいくことだと思います。今後も矯正歯科治療に有用な、外部講師をお呼びしての講演や、内部活性化としての会員発表にも力を入れ、会員相互の研鑽に努めていきたいと思っております。

また、機会あるごとに告知していますように、2020年2月8・9日には九州矯正歯科学会大会を熊本で開催致します。これは九州矯正歯科学会・熊本支部として主宰するものでありますが、熊本矯正歯科研究会がその協力団体として、大会の成功に向けて協力していく所存です。もちろん、熊本支部の会員で構成された準備委員会で、着々と計画を練っているところです。

どうぞ、この熊本矯正歯科研究会の先生方も大会参加をよろしくお願ひ申し上げます。

さて、来る6月15日(土)に熊矯の総会講演会が予定されています。講演会では、熊本市民病院歯科口腔外科の太田和俊先生にお願いしています。顎変形症の手術に関する内容となりますが、以前ご講演頂いた熊本大学医学部歯科口腔外科の中山秀樹教授とは、また違った切り口でお話が聞けるとお思いますのでご期待下さい。これから会員の先生方に有用な情報を提供して参りたいと思ひますので、ご意見やご提案等ありましたらぜひお聞かせ下さい。末尾になりましたが先生方の益々のご健勝を祈念申し上げます。

2019 年度後期の主な活動

○ 第8～14回理事会

ほぼ月一回のペースで役員会を行っています。2018年9月3日に第8回、10月1日に第9、11月12日に第10回、12月3日に第11回、2019年1月21日に第12回、2月4日に第13回、3月11日に第14回の役員会を開催しております。

2018年11月10日に医療法人イースマイル国際矯正歯科 有本 博英先生をお招きして、2018年度熊本矯正歯科研究会を開催しております。

今年度後期の理事会主旨

- ・2019年総会講演会について、開催場所、日程、ご講話を依頼する講師について相談
- ・九州矯正歯科学会熊本大会準備委員会における協力体制について検討
- ・2020年2月8・9日の九州矯正歯科学会熊本大会会場は市民会館シアーズホーム夢ホールに決定
- ・6月の歯の祭典について検討
- ・次期会長、幹事、役員について検討
- ・選挙管理委員募集について

2018年度熊本矯正歯科研究会 講演会 (2018年11月10日)



『デジタルで変わる矯正治療』

医療法人イースマイル国際矯正歯科理事長 有本 博英 先生

矯正治療の過去から現在の話をされ、歯科領域ではこの数年で口腔内スキャナーが普及し、歯の形態のBit 化され歯の移動の数学的解析が可能になりマルチブラケット治療とは異なりデジタルライナー矯正治療の分野が飛躍的に発展していることを御講話いただきました。マウスピース型矯正治療ケースにおいて、ほとんどが非抜歯で治療している事が強く印象に残っております。講話中、関西弁で終始面白おかしく、一時間半の講演時間はあっという間に過ぎてしまいました。

懇親会スナップ



和やかなムードの中、事務局の京極和彦先生、山部耕一郎先生の会長挨拶、御講話いただいた有本博英先生のお言葉に始まり、牧野敬美先生の乾杯により、賑やかに祝賀会が開催されました。

また、徳永俊英先生の万歳三唱により、盛会のうちに閉会しました。

今後の予定とお知らせ

- ・ 2019年6月15日（土）に2019年度熊本矯正研究会総会・講演会を行います。懇親会も予定しておりますので、スタッフの方もお問い合わせの上ぜひご参加ください。

講演会抄録

会員発表

『こども歯科・矯正歯科の役割を考える』

ふわりこども歯科・矯正歯科 院長 北須賀 通子 先生



私が歯科大を卒業した年は、研修医制度の狭間で研修医として大学に残るか、外部に出るか選択ができました。また日大の研修医として一般治療をしながらそれぞれ希望の医局に入ることも出来たため、私は臨床研修と口腔外科医局とを行き来しながら研修医時代を過ごしました。将来の道を模索できた一年間、補綴Ⅰと矯正科、口腔外科で悩んだ結果、大阪歯科大学の矯正科に進むことを決めました。

医局ではインストラクターによって分析も装置も様々で、矯正の考え方や治療法はとても

奥が深いということを知りました。認定医も取得しましたが矯正は難しい分野であり、同時にやりがいもあるという思いはこの先もずっと変わらないと思います。開業前の勤務先で一般歯科に携わり、多くの子供を診ていくことで咬合誘導、予防矯正の必要性を強く感じるようになりました。今回は、こども歯科・矯正歯科の役割について考えたいと思います。

特別講演

『当院における顎変形症手術について』

熊本市民病院歯科口腔外科 部長 太田 和俊 先生



《略 歴》

1992年3月 鹿児島大学歯学部歯学科卒業
1992年4月 熊本市宇治歯科医院勤務
1996年1月 熊本大学医学部附属病院歯科口腔外科 医員
2001年4月 熊本大学医学薬学研究部顎口腔病態学 助手
2011年6月 熊本大学医学部附属病院歯科口腔外科 講師
2013年4月 熊本市立熊本市民病院歯科口腔外科 部長
2017年4月 熊本大学医学部臨床教授

現在に至る

《資 格》

医学博士

日本口腔外科学会 専門医・指導医

日本口腔科学会 認定医・指導医

日本顎関節学会 専門医・暫間指導医

日本有病者歯科医療学会 専門医・指導医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医・暫定教育医

顎変形症の治療は1849年に米国で火傷の患者に行われた下顎前方歯槽骨切りに術に始まり、20世紀にはいると様々な手術法が報告されてきました。なかでも下顎は1957年にH. Obwegeserによって口内法による下顎矢状分割法が発表されてからは、その応用による術式が多く考案され広く各施設で行われるようになりました。その間に固定法もワイヤーからスクリュー、プレートへと変遷を遂げ、チタンや吸収性のものまで選択できるようになりました。

今回は実際に当科で行っている顎変形症手術（下顎矢状分割術、LeFort I上顎骨切術、おとがい形成術）について、実際の手術症例を中心に御紹介し、様々なご意見を頂ければと考えています。現在、熊本市民病院では長期の入院が出来ないため熊本大学病院や森都病院などで手術を行っていますが、来年10月からは当院も東町に移転し手術も震災前と同様に行う事が出来るようになります。何かありましたらいつでもご相談下さい。

（編集；広報担当理事 平良 幸治）

熊矯ホームページは、 <http://kumakyouseiken.com/>

熊本矯正研究会のニュースレターはホームページからもご覧できます。是非ご覧くださいませ。
会費未納の会員の先生方は早急に納入くださるようお願い致します。